



発行所
山形新聞社
 〒990-8550
 山形市旅籠町2-5-12
 総合案内 023(622)5271
 読者センター 023(622)5666
 (平日9時30分～17時30分)
 (c)山形新聞社2017

2017年
 1月23日
 <月曜日>



特別号外

■やまがた
 ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
yamagata-np.jp/mobile/



詳しくは山形新聞を
 ご覧ください。

稀勢の里横綱昇進確定



初優勝を達成した大相撲初場所の千秋楽から一夜明け、笑顔で記者会見する大関稀勢の里。23日午前、東京都江戸川区の田子ノ浦部屋

大相撲初場所で初優勝した大関稀勢の里(30)＝本名萩原寛、茨城県牛久市出身、田子ノ浦部屋Ⅱの第72代横綱昇進が23日、確定した。日本相撲協会の諮問機関、横綱審議委員会が東京都墨田区の両国国技館で会議を開き、推薦を決めた。日本出身の横綱誕生は1998年夏場所後の3代目若乃花以来19年ぶり。

横審が推薦決める

相撲協会は25日午前、所での最高位到達は昭和の春場所番付編成会議 和以降で最も遅い。後の臨時理事会で、正式に昇進を決定する。

ついに大願成就

稀勢の里は初場所14日目に優勝を決め、千秋楽で横綱白鵬を破り、14勝1敗の好成績などが評価された。新入幕から所要73場

大関稀勢の里が、横綱昇進も手中に収めた。17歳で関取になるなど出世が速く、日本出身力士の星として角界内外の期待を一身に浴びてきた。だが、詰め甘さやここ一番での弱さが災い。2011年九州場所後に大関となつてからも優勝と綱のりのチャンス逃してきた。勝つても負けても地道な稽古を怠らず、悔しさに耐え続けた根性がようやく実を結んだ。

新入幕から所要73場所での初優勝は史上2番目、横綱昇進は昭和以降で最も遅い。「苦しさは耐えた先にこそ光が見える。だから自分には継続して努力する」。愚直に道を歩み、初優勝と19年ぶりの日本出身横綱誕生という大輪の花を咲かせた。

購読・試読のお申し込みは▶
 フリーダイヤル 0120-81-8040